



第1回世界ご当地エネルギー会議
The 1st World Community Power Conference
2016年11月3日(木)～4日(金) 東京都千代田区 2016 Conference ParkHotel

第1回世界ご当地エネルギー会議の様子

一般社団法人 全国ご当地エネルギー協会

全国ご当地エネルギーによる 参加型温暖化対策の 仕組みづくり・協働・実装

国際会議の
ご当地エネルギー
事業者参加数

100団体

会員の増加

25%

活動の全体目標に
対する達成度

80%

入門助成

1年目

知識の提供・
普及啓発

課題

専門的な知識やノウハウを一段と必要とする「次のご当地エネルギー事業」を展開していくために、相互支援的なネットワークの構築と維持が課題となっている。

目標

●二つの新たなビジネスモデルを作る ●全国の地域エネ事業を支援する「協働プラットフォーム」機能の確立 ●国際会議に50以上のご当地エネルギー事業者が参加し、会員数の25%増加を図る。

活動内容

●11月3、4日に「第1回世界ご当地エネルギー会議」を開催し、世界30カ国から640名が参加した。●事業モデルの構築に向けて小型ボイラー導入ワーキンググループ(WG)を立ち上げ、検討を進めた。●ご当地エネルギー証書の基本デザイン構築に向けて、会員のご当地電力団体と新電力間のマッチング等を進めた。●「100%自然エネルギー」に関するイベントを他団体と連携して開催し、普及啓発活動を行った。



公開セミナー
「ご当地エネルギーその次へ」
の様子

達成できなかったこと

ご当地エネルギー証明書、知識共有ベースは、検討を進めているが、運用開始が予定より遅れている。

今後の展望

現在進めている取組みを発展的に継続し、ご当地エネルギー団体が事業を推進しやすい環境を整備していく。

成果と工夫した ポイント



成果

・「第1回世界ご当地エネルギー会議」では、世界30カ国から640名が参加し、ネットワークの拡充に貢献することができた。
・小型ボイラーWGでは、導入に向けた検討や視察、導入マニュアル作成に着手できた。

工夫

イベントやWGを他団体と連携して行うことにより、ネットワークが現在進行形で構築されている。